

JSCASUP ベーシック 報告書

■報告日 2018年7月4日(水)
■報告者 中村昭彦

■実施日 2018年7月4日(水)
■実施会場 (技術)野尻湖菅川地区
■主管 一滴 Paddle & Mountain Guide
■担当トレーナー/担当講師 中村昭彦(一滴 Paddle & Mountain Guide)
■受験生 3名(新潟県2名、長野県1名)
合格予定者3名
■当日の天候 台風7号が九州北部を移動していて、それに伴う前線が刺激を受けている状態でした。
気象庁の観測データで 信濃町 南の風約6メートル

■開催の経緯

野尻湖周辺で JSCA の公認スクールに所属していて、SUP ベーシックを受験したいといった声をいただき、日程を調整しました。よって、すでに一般会員であり、公認スクールに所属している方を対象とした、技術科目のみの検定会を行いました。

■漕艇技術&フィードバック

同じフィールドを活動しているので、講習でなくても一緒に漕ぐ機会もあり、技術的には十分それぞれが理解していました。

風が強かったのですが、できる限り影響が少ない場所を選び検定を行いました。

検定後すぐに行ったフィードバックでも、よりボードを動かすためのパドリングに関して、意見を出し合い、今後意識したほうが良い方向性を得たのではないかと思います。

■指導法&フィードバック

既にプロ活動をしている方が対象だったので、接客に関することは全く問題なく、非常にわかりやすく、優しく伝えていました。ただし、SUP を始めて間もない方や、SUP ベーシックの指導には関わっていない方もおり、SUP ベーシックの特徴を活かした指導が少なかったり、逆に知っていることを伝えようとしすぎる方もおられました。

フィードバックではそのあたりのことを踏まえて、SUP の特徴に対する指導の注意点等を重点的に考えていただき、今後の参考にしてもらいました。



■安全講習

SUP のセーフティギアに関して、牽引、アシストレスキュー、フィンの破損に関して検証しました。

セーフティギアに関しては、どのようなものを持っていくべきか、そのものはどのような方法で運搬するか、カヤックと違って艇の中にしまおうとすることができないことを十分に考えていただきました。牽引やアシストレスキューはそれぞれいろいろな状況を考えてもらいそれを実践し検証しました。活発な意見が出て、多くの引き出しを得たと思います。最後にフィンが破損した状況を作って実際漕いでもらいました。フィンの重要性を体験できたかと思います



■総括

予定時間をあっという間に過ぎてしまうほど、多くの意見が飛び交ういい検定会でした。全員モチベーションも高く、いくらでも持ち帰る熱意を感じました。野尻湖周辺も SUP を使用する業者も増え、今後セーフティに関してもっと意識していかないと、何かしらのインシデントが発生する可能性もあります。そのためにももっとお互い意識を高め、協力し合うことが非常に重要であると感じました。これを機に定期的に集まり、研修会を開いていこうと受験生から意見が出ましたので、積極的に企画していきたいです。

検定をきっかけに研修をどんどん行えるような環境作りも、担当検定員の役割であると、改めて感じました。